

2021/11/15 (月)

朝の礼拝

聖書 詩編121編1-8節 (旧約聖書969頁)

目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。
わたしの助けはどこから来るのか。
わたしの助けは来る
天地を造られた主のもとから。
どうか、主があなたを助けて
足がよろめかないようにし
まどろむことなく見守ってくださるように。
見よ、イスラエルを見守る方は
まどろむことなく、眠ることもない。
主はあなたを見守る方
あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。
昼、太陽はあなたを撃つことがなく
夜、月もあなたを撃つことがない。

主がすべての災いを遠ざけて
あなたを見守り
あなたの魂を見守ってくださるように。
あなたの出で立つのも帰るのも
主が見守ってくださるように。
今も、そしてとこしえに。

見守ってくださる

秋が深まり紅葉の季節となりました。美しく色づいた山々に出かけている方も多いでしょう。古今東西、山には水源があり命の源だと信じられ、神聖な場所であり許された者しか入れない所でした。また険しい山や深い森は厳しい修行の舞台にもなりました。

聖書の世界ではモーセがシナイ山で神と出会い、十戒を授けられました。そして都がエルサレムに定められると、十戒は神殿に納められました。実はこのエルサレムも周囲では一番高く、わずか20kmの距離に高低差1000mという自然の要塞でした。

詩人は「主は私たちを助け、見守ってください」と繰り返していました。昼、太陽が撃つことなくとは太陽を神と信じるエジプトから、また夜、月が撃つことなくとは月を神と信じるバビロニアから主なる神は私たちを助け、見守ってくださいという意味です。

巨大な文明の脅威、厳しい自然の中で、詩人は主なる神を仰いでいます。主なる神はさまよえる小さな民を救い、「平和の町」という意味のエルサレムに祈りの家を与えられました。主なる神はどこしえに私たちを助け、見守ってくださいと信じているのです。

しばらく黙祷しましょう。

私たちを助け守られる主よ、収穫の秋も深まり、この一年のあなたの導きと恵みに感謝します。今週の金曜日には全校修養会が開かれます。どうか聖書の言葉に耳を傾け、この一年のあなたの導きと恵みをふりかえり、わたしたちのこころを養う時として下さい。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン